

フィンドレー大学への交流留学 月例報告書 10月分

今月の活動報告です。今月は秋休みの旅行とハロウィン文化について書いていきたいと思えます。

秋休みを利用してニューヨークに旅行に行きました。大学から空港までの手段がないため（バスもタクシーも電車ありません）友達に空港まで送ってもらうように頼みますが大学から空港まで片道約1時間30分かかる道のりを送ってくれる友達はなかなか見つからず大変でした。しかし、友達の一人が空港の送迎だけでなく出発前に実家にも招待してくれました。アメリカでは10月にホームカミングという一大イベントがあり、友達のハイスクールのホームカミングイベントに連れて行ってくれました。そこではパレードがあり子供たちがキャンディーを観客に向かって投げる催しや、アメフトの試合にも連れて行ってくれました。夜には焚火を使ってスモアをつくってくれるなど、家族は暖かく迎えてくれてとても嬉しかったです。

次の日から約4日間のニューヨーク旅行に行きました。ロックフェラーセンター、エンパイアステートビル、自由の女神、9.11メモリアル博物館、メトロポリタン美術館、アメリカ自然博物館、ブロードウェイミュージカルなど観光を満喫しました。しかし、町中に漂うたばこではない怪しい菓の匂いや、物価高に加えてひどい円安が続いていたのでクリスピークリームドーナツのドーナツ1つとコーヒー1杯で1,000円するなど驚きの連続でした。さらに雨の影響で帰りの飛行機が飛ばなくなってしまい空港の中で一晩過ごしやっとな次の日に帰れたと思ったらロストバゲージをしてしまいデトロイト空港でさらに3時間荷物を待たなければならないといったハプニングの連続でした。航空会社は人によっていうことが違うなど「適当さ」がいかにアメリカでした。勿論、困惑しましたがこれも一つの勉強だと思い楽しめました。

10月はハロウィンイベントをたくさん楽しみました。大きなかぼちゃを買ってジャックオランタンをつくるカービングパンプキンやホーンテッドフォレストという名前のお化け屋敷、パレード、仮装をして友達と一緒に楽しみました。友達の寮の共用スペースには「自由に持って行ってください」と言ってキャンディーの箱が置かれていてアメリカ人のハロウィンに対する情熱がとても興味深かったです。しかし、そのキャンディーを一つ取って食べようとするとう友達から「ちゃんと確認してね。」と言われて「何の確認？」と質問するとアメリカではこのような誰が置いたか分からないようなキャンディーは針や変な薬が仕込まれていることがあるので袋がすでにあけられていないか確認が必要だと教えてくれました。ハロウィンのどんなお化けよりも怖い話だなぁだと思いました。

今月は合唱の授業でコンサートに参加しました。英語の歌だけではなくフランス語・韓国語・ブルガリア語の歌を歌いました。楽譜が読めないのに加えて、違う国の言葉の歌な

んて難易度が高すぎて歌えるわけがない。と思っていましたが何とか頑張りました。また嬉しかったのは合唱の同じパートのアメリカ人の学生と少しずつですが仲良くなれたことです。授業の前に少し話をしたり、曲について質問したりとアメリカ人と喋る機会を得るという点でも頑張りました。

気づけば前期はあと1ヶ月です。本当に時間が過ぎるのが早くて困ってしまいます。まだまだ挑戦できることがたくさんあると思うので前向きに頑張っていきたいと思います。



家に招待してくれた友達と家族です
お母さんのつくるパンプキンパイが特においしい
です。



ハロウィンパレードです。
ハロウィンイベントがたくさんあるのに、ハロウ
イン当日には何もないというのがまたアメリカら
しいと思いました。



合唱のコンサートです。
大学のカラーであるオレンジのスカーフをみんな
で身に着けています。
と